

白山の見える所で

白山と私達の生活

七百十七年(養老元年) 泰澄大師、白山を開く
九百二十七年(延長五年) 延喜式で能美八座の神社選ばれる。

狭野神社(寺井町佐野)・多太神社(上本折町)・石部神社(古府町)
滓上神社(中海町)・兔橋神社(浜田町)・幡生神社(吉竹町)
多伎奈彌神社(辰口町長滝)・熊田神社(根上町吉原)

能美郡下の別名

軽海(加留美)・野身(乃美)・山上(也万加美)「辰口北部」・兔橋(宇波之)「小松北部、寺井」

郡家の庄に住む私たちは、湊川(手取川)と安宅川(梯川)に挟まれ、西は日本海に面する砂丘地帯、中央部から南部にかけて肥沃な能美平野の一角を占めたが、白山川(手取川)の洪水の被害は度々受けていた。

また、私達の海岸沿いに比楽の駅(ひらかのうまや)・安宅の駅(あたかのうまや)と共に交通の要衝であった。

「平家物語」や「大平記」に源平争乱の会戦談が描かれ、義経の北国落ちを、語った猿楽能「安宅」の舞台となるなど、中央にも知られた名所であった。

中世「根上り松」は付近の白山遥拝所であったし、鎌倉末期には時宗・曹洞宗・大徳寺末の臨済禅などの新宗教が他所よりも早くもたらされ、郡家庄領家の勧修寺(真言宗)の在家末寺も所在するなど、新旧諸派の活動が活発に行われており、更に赤井には真宗寺院「称名寺」が登場して、多彩な宗教活動の舞台ともなった。

さらに、この時期から越前の朝倉氏が、しばしば能美郡に侵攻したことが、「朝倉始末記」に描かれ、戦国末期には、織田軍が進出して、江沼・能美両郡を手に入れ、遂に金沢御堂を中心にする加賀一向一揆を滅ぼした。

この、戦国騒乱期の舞台となったことも、この地域の戦略的要地であった事を物語っている。

一向一揆と朝倉義景

永祿七年(一五六四年)九月

三十二歳の越前 守護・朝倉義景は、自ら南加賀に出馬し大半を占領した。